

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	文化人類学A		
英文授業科目名	Cultural Anthropology A		
開講年度	2007年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>文化人類学は、人文社会科学の1つとして、人類文化の基礎を学ぶ学問である。人類は、他の動物とは違い、地球上のあらゆる環境に生きている。それは、種としての形質を変えることで環境に適応するよりも、食料生産技術の発達とそれに見合う社会・文化を築くことで環境に適応し、あるいは環境そのものを変えて進化・発展してきたからである。そういった人類社会のあり方を、技術・生産的な側面（生態人類学）と交換・経済的な側面（経済人類学）から見ていく。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
とくになし

【教科書等】
<p>参考書：綾部恒雄・田中真砂子「文化人類学と人間」（三五館）</p> <p>山下晋司・船曳建夫「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書）</p> <p>小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社）</p>

【授業内容とその進め方】

文化人類学Aでは、種として人間と環境の係わり方を土台にして、サルからヒトへの出発点から始め、技術・経済の側面から生業様式を中心にして、採集狩猟民、牧畜民、農耕民、都市民といった生活者の社会や文化を理解し、さらに経済人類学の「交換」について理解する。

第1回 文化人類学とフィールドワーク

第2回 人類の誕生—サルからヒトへ

第3回 人間と自然—生態人類学の視点

第4回 採集狩猟民の生活—ブッシュマン

第5回 牧畜民の生活1—草原のモンゴル

第6回 牧畜民の生活2—砂漠のベドウィン

第7回 農耕民の生活1—農耕の起源と農耕文化

第8回 農耕民の生活2—インドネシアの農民

第9回 都市民の生活—伝統ムスリム都市

第10回 交換の様式—社会統合のかたち

第11回 社会のまとめ役—調停者と統率者

第12回 近代国民国家はどこへ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

主として学期末テスト(論述式)で評価する。出席状況も参考にする。

【オフィスアワー：授業相談】

授業後、相談に応じる。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【学生へのメッセージ】
教科書がないので、授業をよく聴いて理解すること。分からなければ質問すること。

【その他】